

高知県長期漁海況予報

平成14年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成13年12月発行 高知県水産試験場

このたび、平成14年1月から6月を予測期間とした平成13年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議が横浜市で開催され、国、高知県及び関係都道県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

海況

海況の経過 (平成13年7月～12月)

1.黒潮

8月中旬に足摺岬沖を小さな蛇行(離岸現象)が通過し、下旬には足摺岬～潮岬で接岸傾向となった。9月下旬に九州南東沖に小蛇行が発生し、10月上旬足摺岬沖を、10月下旬室戸岬沖を通過した。12月中旬現在、小蛇行が足摺岬を通過し、室戸岬沖を通過中。

2.沿岸海況

沿岸の水温は、4月以降続いてきた中低層域の低温現象は8月まで続いたが、9・10月にいったん崩れた後、11月に再び100m層以深で低温化する傾向がみられた。

各地の定地水温は(県下6カ所 甲浦、室戸岬、浦の内、田野浦、足摺岬及び柏島)、7月は「平年並」もみられたが「やや高め」～「著しく高め」と全般的に高め基調であった。8、9月は概ね「平年並」となったが、10月は「やや高めの」の観測点が多かった。11月は足摺岬で「かなり高め」、田野浦で「やや低め」となった他は「平年並」であった。

土佐湾沿岸水温の平年偏差

海域	土佐湾				
	水深	0m	50m	100m	200m
2001年7月	+	-	-	-	-
2001年8月	-	+	-	-	-
2001年9月	+	-	+	+	-
2001年10月	+	+	+	+	+
2001年11月	+	-	+	-	-
2001年12月					

土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2以上
++	かなり高め	1.3～2.2
+	やや高め	0.6～1.3
+ -	平年並(+基調)	0.0～0.6
- - -	著しく低め	-2.2以下
- -	かなり低め	-1.3～-2.2
-	やや低め	-0.6～-1.3
- +	平年並(-基調)	0.0～-0.6

予測(平成14年1～6月)

1.黒潮

1月後半に九州南東沖で小蛇行が形成される。2月～3月にこの小蛇行が四国沖を東進し、それに伴い室戸岬沖～潮岬沖で離岸傾向となる。九州南東沖では3月前半には接岸傾向に戻る。3月後半に室戸岬沖～潮岬沖で接岸傾向となる。

5月前半に再び九州南東沖で小蛇行が形成される。5月後半～6月にこの小蛇行が四国沖を東進し、それに伴い室戸岬沖～潮岬沖で離岸傾向となる。九州南東沖では6月後半には接岸傾向に戻る。

(予測の根拠)人工衛星海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法等による。

2.沿岸の水温

- 土佐湾 : 「平年並」から「高め」で推移する。
豊後水道東部海域 : 「やや高め」から「高め」で推移する。
紀伊水道外域西部海域 : 期前半は「平年並み」で推移する。

(予測の根拠)高松地方气象台発表の「四国地方3か月予報」、現在の海況の傾向等による。

漁 況

サバ類 (マサバ、ゴマサバ)

漁況の経過 (平成13年7~11月)

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1403.5トンで、豊漁の前年(1149.6トン)を上回り、平年(602.1トン)以下平年は1990~1999の平均値をいう)を大きく上回った。漁獲の主体は1999年級群及び2000年級群で、2001年級群の出現は僅かにとどまった。
- (2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による漁獲量は31.3トンで、前年(89.9トン)、平年(241.2トン)を大きく下回った。2001年級群は6月に若干が入網したが、その後はまとまった入網は無く、漁場に現れていない模様。
- (3) 釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4漁協合計)による漁獲は772.6トンで、前年(658.0トン)及び平年(634.4トン)を上回った。

2 周辺各県の経過

宮崎県：6月から10月の総漁獲量は487トンで、前年・平年を大きく下回る不漁であった。

愛媛県：漁獲量は1987トンで、前年比55%、近年比71%、平年比69%の低水準で移行した。

和歌山県：紀伊水道外海まき網による秋サバ漁は、来遊が少なく、前年・平年を下回る不漁で推移した。

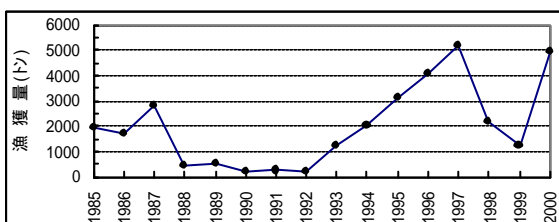


図 サバ類漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

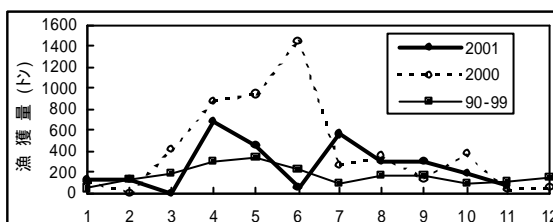


図 サバ類月別漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

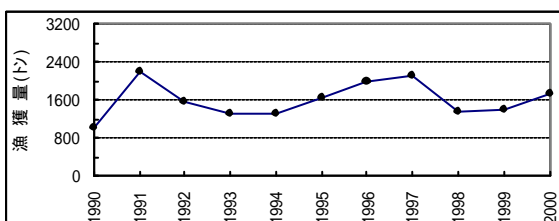


図 サバ類漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り)

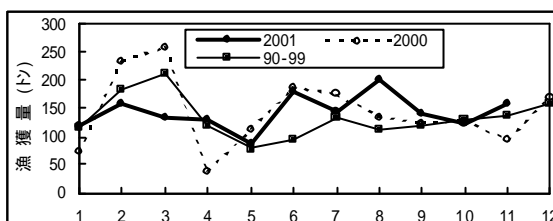


図 サバ類月別漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り)

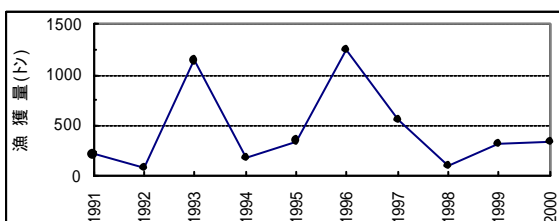


図 サバ類漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

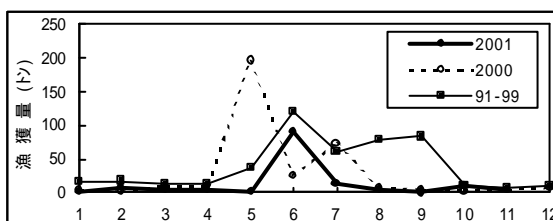


図 サバ類月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

予測 (平成14年1~6月)

来遊量：豊後水道域では、ゴマサバ1歳魚は少なかった前年並み。ゴマサバ2歳以上は前年を下回る。マサバは低い水準。さば類全体としては、前年をやや下回る。

紀伊水道外域では、マサバは前年を下回る。ゴマサバは前年並み。さば類全体では前年並みか前年をやや下回る。

説明：

ゴマサバ：資源状態は、近年では1999年級群の加入量が比較的高く、2000年級群は、かなり低かった1997年、1998年と比較しやや高い程度。来遊量は、1歳魚(2001年級群)は、加入水準が極めて低いというわけ

ではなく、予測期間中、西日本太平洋地先でも水域によっては一時期まとまった来遊をみる場合もあろう。2歳魚(2000年級群)の来遊量は、西日本では2000年春夏季の加入当初から極めて少ない。3歳魚(1999年級群)は、その加入量を反映して太平洋側全域で多く漁獲されてきた。しかしながら、既に残存資源量は少なく、特に西日本太平洋側沿岸では漁況が途切れている水域がある。

マサバ資源状態は、1990年以降低水準であるが、1992年と1996年に加入量が多く、卓越年級群が出現した。1997～1999年級群の加入量は低い。2000年級群の加入量は1992年級群と1999年級群の間にあると考えられる。2001年級の加入水準は極めて低水準。来遊量は、伊豆諸島周辺海域より西部では、紀伊水道外域を除きさば類に占める近年のマサバの割合は低く、漁場形成があっても不安定である。従って、紀伊水道外域を除き来遊量は少ない。

マアジ

漁況の経過(平成13年7～11月)

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は377.3トンで、前年(606.2トン)、平年(704.2トン)を下回った。銘柄別では、150g以上の「アジ」が約40.7トンで、前年(56.3トン)及び平年(20.4トン)の2割弱と極めて低調であった。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は336.6トンで、前年(249.9トン)を上回ったが、平年(483.8トン)は下回った。
- (2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による漁獲量は96.2トンで、前年(133.8トン)、平年(132.3トン)の7割程度であった。本年上半期の漁獲主体であった1999年級群及び2000年級群の来遊は途切れ、下半期漁獲の殆どが100g未満の当歳魚で占められた。当歳魚の漁獲水準は概ね前年並みで推移している。

2 周辺各県の経過

宮崎県 総漁獲量は3787トンで、前年・平年を上回る好漁であった。

愛媛県 漁獲量は2738トンで、前年並みであった。南部海域では前年比67%と低水準であった。

和歌山県 紀伊水道外海のみまき網による漁獲量は、前年及び平年を大きく下回った。当歳魚(2001年級群)の加入は漁獲動向からみて良好であり、資源水準は高いとみられる。

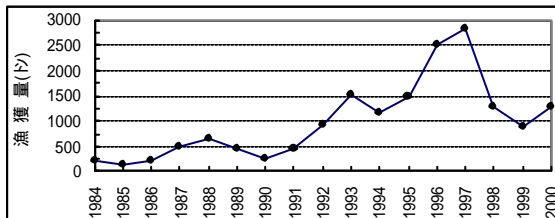


図 マアジ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

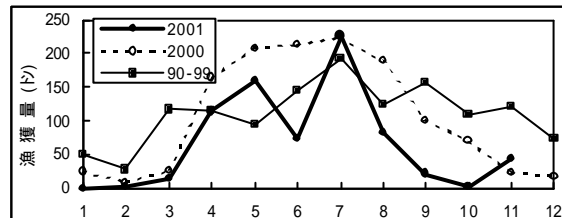


図 マアジ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

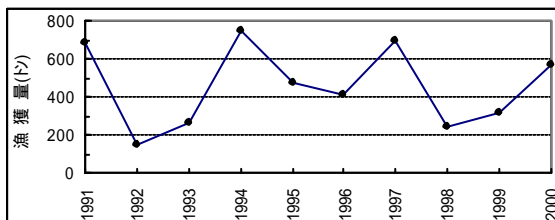


図 マアジ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

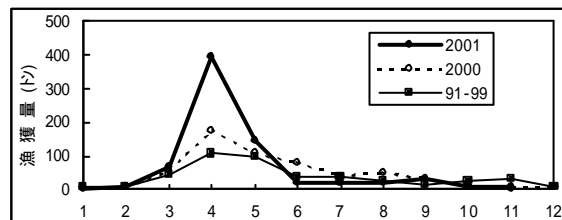


図 マアジ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

予測(平成14年1～6月)

来遊量 豊後水道域では、前年を上回る。

紀伊水道外域では、1歳魚は前年を上回る。2歳以上は前年を下回る。全体として前年をやや下回る。

説明 漁獲量は1993年以降増大し、1996年にピークとなったが、1997年から3年連続して減少傾向にある。資源量も良好な加入に支えられて1990年代に入り高水準で推移してきたが、1997年以降連続して減少した。2000年は加入量が前年を上回り、資源量もわずかに回復した。来遊量は、2001年級群はおおむね

前年を上回ると推定される。2000 年級群は加入が良好であったにもかかわらず、2001 年に入り来遊が途絶えた模様である。このため予測期間中は 2 歳以上の来遊水準が低いと考えられる。

マイワシ

漁況の経過 (平成13年 7~ 11月)】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲は 224.9 トンで、前年 (9.8 トン) を大きく上回ったが、平年 (249.1 トン) はやや下回った。水揚げの殆どは 11 月のもので (218.9 トン)、11 月としては異例の漁獲となった (平年 2.1 トン) 魚体は 14~17cm の 2001 年級群。
- (2) 定置網 (窪津・加領郷・椎名 3漁協合計) による漁獲量は 31.1 トンで、前年 (5.6 トン) をやや下回った程度だが、平年 (75.6 トン) を大きく下回った。

2 周辺各県の経過

宮崎県：漁獲量は1177トンで前年比184%だが、平年との比較では依然として低調である。

愛媛県：漁獲量は258トンで、前年比774%と近年では高水準であったが、資源量が低水準であるため平年には及ばなかった。

和歌山県：7~11月の1そうまき網による漁獲量は前年を大きく上回った。

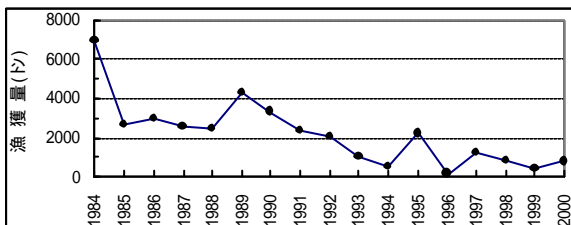


図 マイワシ漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

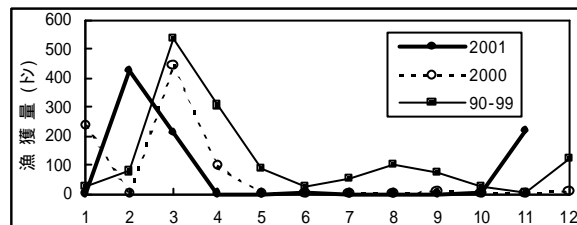


図 マイワシ月別漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

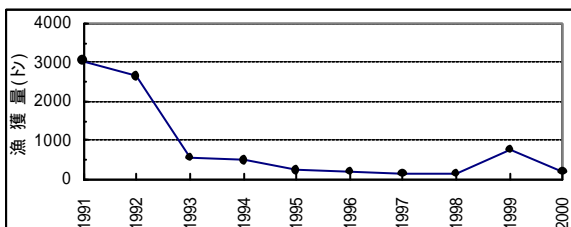


図 マイワシ漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

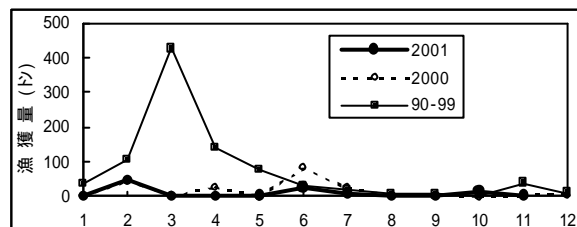


図 マイワシ月別漁獲量の推移 (窪津・加領郷・椎名：大型定置網)

予測 (平成14年 1~ 6月)】

来遊量：前年並みか前年を下回る低水準。

説明：マイワシ太平洋系群の資源水準は過去 20 年では低位、5 年間で減少傾向にある。1998 年級群の残存量は非常に少ない。1999 年級群の加入量は極めて低く、漁場にもほとんど出現していない。2000 年級群は、1999 年級群をかなり上回るが、残存量は少ない。2001 年級群は、四国~ 関東ではある程度の魚群がこの海域に滞留していると考えられるが、漁獲主体の北部を含めた太平洋全体では加入量水準は極めて低いと推定される。

カタクチイワシ

漁況の経過 (平成13年7～11月)

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は66.3トンで、前年(43.9トン)、平年(31.0トン)を大きく下回った。銘柄別では幼魚「トコ」は58.7トンで、前年(0.8トン)、平年(79.9トン)の6～7割の水揚げがあったが、未成魚・成魚の銘柄「タレ」の漁獲は7.6トンと低迷した(前年153.1トン、平年251.1トン)。
- (2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による漁獲は9.9トンで、前年(0.1トン)、平年(13.4トン)と大差ない。この時期の定置網による本種の漁獲は低調なため、評価材料としてはあまり参考にならない。

2 周辺各県の経過

宮崎県 総漁獲量は3142トンで、前年比43%、平年比81%と前年・平年を下回って推移した。

愛媛県 漁獲量は1434トンで、低水準であった。南部海域では不漁であった。

和歌山県 (シラス以外の未成魚・成魚はほとんど漁獲対象にしない)。

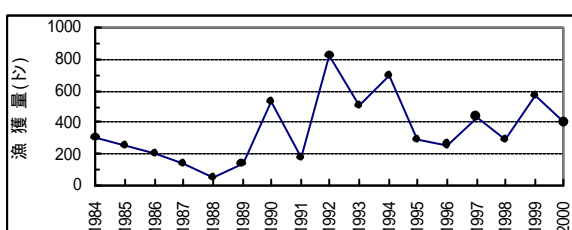


図 カタクチイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

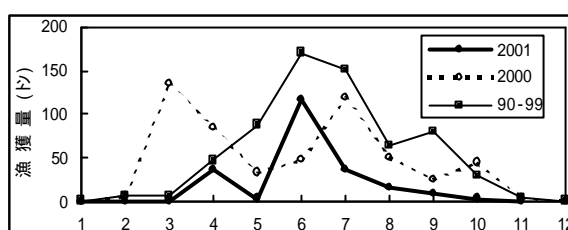


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

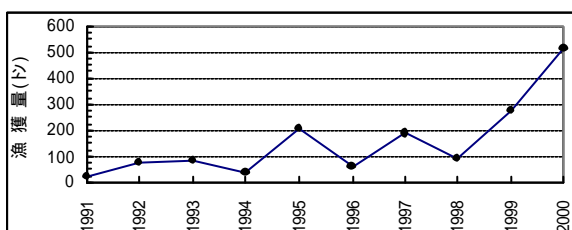


図 カタクチイワシ漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

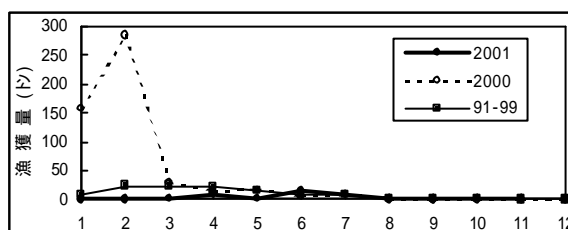


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移(窪津・加領郷・椎名:大型定置網)

予測 (平成14年1～6月)

来遊量:前年並みか前年を下回り低調。

説明:資源水準は過去20年では高位、5年間で横ばい傾向にある。1999年級群の資源量は、これまでの漁況の推移から近年としては低いと推定される。2000年級群も低く、2001年級群についても各地のシラス漁況等から高くはないと考えられる。

ウルメイワシ

漁況の経過 (平成13年7～11月)

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は648.4トンで、前年(22.1トン)をやや下回ったが、平年(454トン)を上回る水揚げであった。マイワシ同様に、水揚げの大半が11月にみられ(596.8トン)、同月としてはモニタリング開始('83)以来最高の水揚げとなった。
- (2) 定置網(窪津・加領郷・椎名3漁協合計)による漁獲量は71.8トンで、前年(18.9トン)、平年(85.3トン)ともに下回る水揚げとなった。
- (3) 今期の宇佐漁協の多鈎釣漁(土佐湾中央部)は、ヨコワ漁が好調なため出漁船がほとんど無く、まだ本格化していない。

2 周辺各県の経過

宮崎県 総漁獲量は3439トンで、前年・平年を上回る好漁であった。

愛媛県 漁獲量は1059トンで、高水準であった。

和歌山県 串本周辺及び南部町漁協の棒受網による漁獲は、前年をやや上回った。

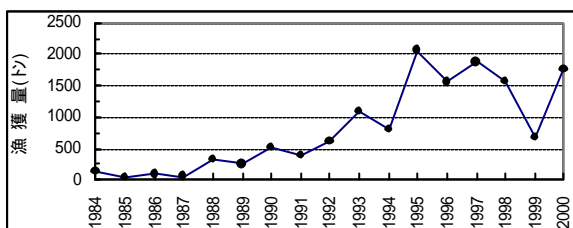


図 カムイワ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

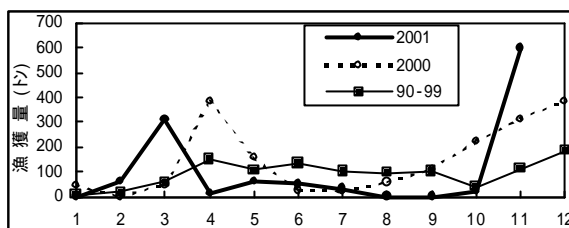


図 カムイワ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

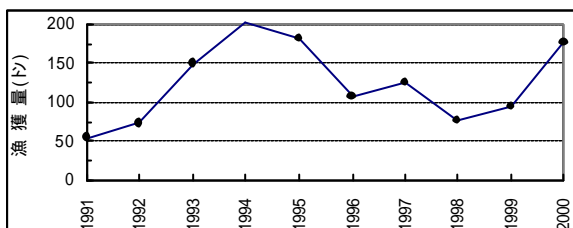


図 カムイワ漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

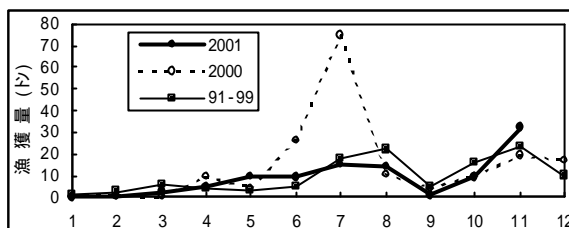


図 カムイワ月別漁獲量の推移（窪津・加領郷・椎名：大型定置網）

【予測（平成14年1～6月）】

来遊量 豊後水道東部では前年を上回る。

土佐湾から紀伊水道西部では前年並み。

説明 資源水準は過去20年では中位、5年間では横ばい傾向にある。2001年1月以降の漁況は、豊後水道東部～土佐湾は前年を下回り、紀伊水道西部では低調であった。各地の4月以降の漁況から2001年級群の豊度は前年を上回ったと考えられる。

シラス

【漁況の経過（平成13年7～11月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区・春野町・錦浦・田野浦 7漁協合計）は6月以降漁場形成無く推移し、極めて不振であった。漁獲量は8.3トンで、前年（52.0トン）、平年（179.6トン）の5%前後の漁獲であった。

2 周辺各県の経過

宮崎県 漁獲量は1129トン（6～10月）で、前年比71%、平年比67%となり、前年・平年を下回った。8月以降は前年・平年を大きく下回った。

愛媛県 豊後水道中部の吉田町漁協の共販取扱量は4.6トンで、前年比5%、近年比6%と低水準であった。

和歌山県 紀伊水道のパッチ網による漁獲は、前年を下回るが、平年をやや上回る水準で推移した。

【予測（平成14年1～6月）】

シラスの予報は、いわし類産卵調査結果等をもとに、3月にファックスや電子メールを用いた会議で検討後、発表します。

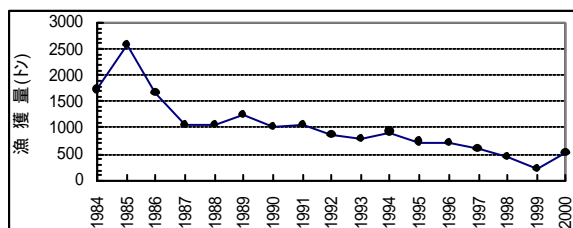


図 シラス漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協）

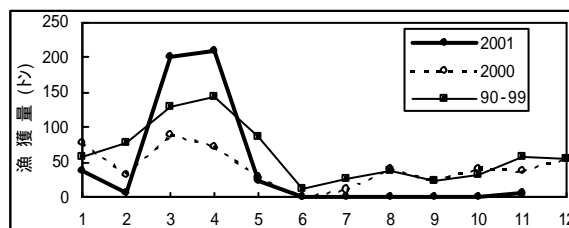


図 シラス月別漁獲量の推移（安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協）